

東京スカイツリータウン 本県企業 商機を拡大

東京の新名所としてにぎわう「東京スカイツリータウン」（東京都墨田区）。本県の企業の中にも、タウンの開発、開業で実績を上げたり、商機を広げる動きが出てきている。電気機器製造の共立電機製作所は発光ダイオード（LED）照明などの納入で全国展開を見据え、ソラシドエアはレストランとの連携で本県食材のアピールを進めようとしている。

受電、照明設備を施工 共立電機製作所

共立電機製作所（宮崎市、地面積3万6900平方メートル）は、東京スカイツリーの周囲に整備されたダイオード（LED）照明を東京スカイツリータウン（敷地）に納入した。米良社長は「災害

への強さも含め、当社の技術が評価された。今後の県外展開へ大きな意義がある」と話している。

共立電機製作所



共立電機製作所が受電設備などを納入した東京スカイツリーイーストタワー（左側のビル）＝東京都墨田区

水族館、オフィス棟などが並ぶ。

共立電機製作所は2008年、スカイツリーの母体である東武鉄道の本社建て替え工事に参加。受電箱と配電箱を外箱に収めたキュービクル式と呼ばれる高圧受電設備を納めて評価を得た。もともと、共立の受電設備は阪神大震災の際に納品先の神戸市の小学校でも壊れず、ライフラインを守ったことで耐震性・免震性の高さで定評があった。

今回はさらに、東街区・タワー街区・西街区に分けられた同タウンの中で、31階建てビル「東京スカイツリーイーストタワー」がある東街区の受電設備やLED照明を受注。請負総額約5億6千万円の施工を行った。

同社は羽田空港や東京デイズニールランドにも受電設備の納入実績がある。現在、東京・東銀座で建て替え工事中の「歌舞伎座」への納入も決まっており、米良社長は「スカイツリーへの営業成果で関東営業所を開設した。耐震・免震の強さを武器に、全国展開を図りたい」としている。